

利用しやすい公共交通を実現していくためには、案内サインやパンフレット類の整備だけでは必ずしも十分ではなく、公共交通の“わかりにくさ”からくる利用者の“不安”を解消することが何よりも重要になってくる。

そこで、地域の観光・歴史・文化・交通などの知識や接客マナーを身に付けたアテンダントが、鉄道駅や中心街バス停などのターミナルで、人では成し得ない心のもった乗継案内や目的地案内、乗降支援などを展開することにより、わかりにくさ(≒不安)からくる公共交通(路線バス)の利用者離れに歯止めをかけながら、利用しやすく迷わず乗れる乗り場環境の改善を図る。

また、プロジェクトの連携によって相乗的な利用促進効果を発生させるために、アテンダントのキャラクターを活用したモビリティマネジメント(乗り方教室)や、サービス向上キャンペーンを併せて実施しながら、ソフト施策を一体的にマネジメントするプロジェクトマネージャーの導入を検討する。

実施業務の内容

交通ターミナル乗継機能強化プロジェクト(事業1-4)

○ターミナルアテンドの実施

⇒八戸駅・バス停・バス車内において、乗り継ぎや目的地の案内活動や乗降支援を行う。

○来訪者等アテンドの実施

⇒来訪者等に対するおもてなし(種差海岸遊覧バスうみねこ号等での車内アナウンスや東北エモーションの見送り等)を行う。

「育てる公共交通」実践・普及プロジェクト(事業2-2)

○モビリティマネジメントの実施

⇒バス・鉄道事業者等との協働により、利用者等を対象としたモビリティマネジメント(利用促進活動)を実施する。

○公共交通の乗り方教室の実施

⇒幼児・児童を対象に、公共交通利用方法等の教室を開催する。

連携

連携

プロジェクト連携による相乗的な利用促進効果

連携

new

「育てる公共交通」運営体制構築プロジェクト(事業2-3)

○プロジェクトマネージャーの導入検討

⇒ソフト施策を一体的にマネジメントするプロジェクトマネージャーの導入を検討する。

連携

公共交通「みんなでかいぜん」プロジェクト(事業2-4)

○接客マナー向上サービスの実施

⇒路線バス接客マナー向上による利用促進を目的としたサービス向上キャンペーンを行う。